

# 書窓

Shoso

No.370

2016.1

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鶴

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

## 子どもの本だな 27

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### ピーターラビットのおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え

いしい ももこ やく (福音館書店)

4匹の小うさぎが、お母さんとモミの木の下  
の穴に住んでいました。ある朝お母さんは、お百姓  
のマグレガーさんの畑にだけは行かないようにと  
言って出かけました。けれどもピーターは、すぐ  
さまマグレガーさんの畑にかけつけ、レタスにさ  
やいんげん、はつかだいこんを何本か食べました。  
胸がむかむかしてきたので、パセリを探しに行っ  
たところ、出くわしたのは、なんとマグレガーさん  
でした。ピーターは畑中を逃げ回り、ものおき  
のじょうろの中に隠れますが…。

ピーターがやっとのことで家にたどりつき、柔  
らかい砂の上に横になった時、ピーターと共に冒  
険をした子どもたちは、深い安心感で満たされま  
す。生き生きした動きのある絵は、おはなしの雰  
囲気を十分に伝えます。ピーターラビットの絵本  
の第1巻目。4～5歳から。 (池田)

### チム・ラビットのぼうけん

アリソン・アトリー 作

石井 桃子 訳 中川 宗弥 画 (童心社)

子うさぎのチム・ラビットは、ある日、野原で  
キラキラしたはさみを見つけ、家に持って帰りま  
した。父さんのラビットさんは大喜び。寒い日も、  
はさみで刈った草を暖かい家の中でゆっくり食べ  
られます。父さんは用心深くはさみを手の届か  
ない高い棚の上にしまいました。次の日、チムは両  
親が出かけると椅子に乗ってはさみを降ろし、毛  
布、テーブルクロス、カーテン、手ふきタオルと、  
次から次へ切りはじめました。切る物が何もな  
くなると、チムは自分の毛を切りはじめます。

(「チム・ラビットとはさみ」他8篇)

チムを通して幼い子どもが世界をどんなふう  
にとらえ、どう行動するのかがわかり、おこる事柄  
にハラハラわくわくし最後には満足します。読ん  
でもらえば4歳位から、やわらかい線画の挿絵と  
ともに楽しめます。 (西村)

1月	2月	1・2月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
7日	4日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
14日	18日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
21日	25日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

## お知らせ

やさしい科学の講座

砂鉄のはなし(仮題)

日時: 2月14日(日)

午後2時~4時

講師: 小寺啓章氏

対象: 小学3年生~大人

会場: 太子町立図書館

読書会室

揖保川流域で採れた砂鉄を  
使いながら、鉄について  
のお話をうかがいます。

※申し込みが必要です

# 『失われてゆく、我々の内なる細菌』 マーティン・J・ブレイザー著

山本太郎訳 みすず書房 286頁 2015年7月刊 3,200円 (請求記号) 491.7

ヒトには一〇〇兆個もの細菌、真菌が常在し、その重量は脳のそれに匹敵する。細菌は宿主のヒトと共に進化してきた。本書では、ヒトの常在細菌の変化が、胃食道逆流症、食物アレルギー、喘息、若年性糖尿病といった病気を引き起こすことを警告する。

なぜ、常在細菌に変化が起こったのか？原因として衛生の改善、抗生物質の乱用と帝王切開（時間の節約といった理由の出産のあり方が問題）が挙げられる。無菌だった胎児が母親の産道で受け継いだ細菌は、三歳までに特有の細菌叢を形成し、免疫の役割を担う。ところが、帝王切開では細菌の受け渡しの機会が失われる。また、さまざまな病気の治療に使用される抗生物質の効果は広範で、特定の細菌にのみ働くわけではない。

衛生の改善で感染割合が低下したピロリ菌。胃に不調がありピロリ菌が見つかる根絶のため抗生物質が与えられるが、研究により、ピロリ菌の根絶は胃食道逆流症の発症率を二倍に上げることがわかった。また、ピロリ菌はアレルギー反応に予防的に働き、喘息、花粉症、アレルギー性皮膚炎を抑制している。ピロリ菌が病原体として認識されているため、著者の「ピロリ菌は人生の前半には健康に利益をもたらし、晩年には障壁となる」という考え方は、同じ研究者からも異端的にとられる。

抗生物質や常在細菌の変化の影響から、肥満、若年性糖尿病も増加傾向にある。抗生物質が感受性細菌を殺す反面、耐性菌を増やす問題もある。成長促進目的で抗生物質の投与を受け続けた家畜からも耐性菌が検出されている。新たな感染症が発生したとき、細菌の多様性を失った私たちの体は対応できるのか。昨年、ピロリ菌を除去したことがよかったのか不安になり、自分に住む細菌がどんなものなのか興味をかきたてられる。

(竹内)

## 1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					×	×
×	×	×	6	7	8	9
10	11	×	13	14	15	16
17	×	×	20	21	22	23
24	25	×	27	28	29	30
31						

## 2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		×	×	3	4	5
7	8	×	10	×	12	13
14	×	×	17	18	19	20
21	22	×	24	25	26	27
28	×					

<日曜日の絵本の時間>

1月17日

時間：11時から

場所：おはなしの部屋

対象：2～3歳

保護者の方も入れます

カレンダーの×印は休館日です。

開館は10時～18時。

金曜日は20時まで開館しています。

## 地下水

初春のお喜びを申し上げます。

図書館に蔵書管理システムを導入して二年がたちました。検索や予約を自宅でする方も増え、ホームページを見るのが楽しみですという感想も聞かれます。十一月からは播磨圏域の七市八町の図書館広域連携が始まり、町外の約二三〇名の方が新たに利用カードを作成し、図書館を利用してられます。目を転じると、昨年は災害が多く、世界の情勢は不安定で、先行きに大きな不安を感じる年となりました。

私たちは様々な国の文学や芸術に触れることで、人種や民族を越えた普遍的なものに出会い、読書によって想像力を育み、何人も排除されてはならないし、排除しないという態度を培うことができるように思います。

アメリカの図書館学校で教科書として広く使用されている『Living With Books』(Haines)の序文にはトーマス・カーライルの言葉「教育の真髄は、人間に読むことを教えることである」と引用されているそうです。先日ある方から、通信教育で大学を卒業し司書資格を取得した娘さんが、図書館で働き始めたと言いました。在学中はレファレンスや資料の取り寄せでお世話になってとお礼を言われたお母さんの顔は誇らしそうに見えました。自ら学び道を切り拓いて進む娘さんと思うと、カーライルの言葉がわずかですが理解できたようです。

今年も皆様にとって良い年であります事をお祈り申し上げますとともに、職員一同よい本をお届けできるよう努めてまいります。

(片木)

